

えんばわ

64
号

Empowerment For All
エフアジャパン

特集

障害が
あるからこそ
学びたい





エファジャパンでは、カンボジア・カンボット州ドントン郡の3集合村に暮らす30人の障害を抱える子どもたちと母親に「居場所」と「学びの機会」を届ける活動に、新たに取り組むことにしました。カンボジアでは、障害児教育・福祉制度の整備が遅れ、特に農村地域では、地域社会の理解不足や偏見により孤立したり、基礎的な読み書きを学べないまま、大人になっていかなるを得ない障害児、そして大きな不安を抱えながらもどうすることもできないお母さんたちが大勢います。今号では、カンボジアの障害児教育の現状と課題、そして新たに取り組むプロジェクトについてお伝えします。

Vol.64 CONTENTS

03 カンボジア障害児教育の現状と課題

05 特集 「障害があるからこそ学びたい」

鼎談

〈話し手〉プロム・サム・オーウン

Cambodian Agency Development of Disability and the Poor (CADDP) 事務局長

〈聞き手〉鎌倉幸子

認定 NPO 法人エファジャパン海外事業担当

07 新たな取り組み

カンボジア農村部ドントン郡での障害児ライフスキル向上プロジェクト

10 新役員からのご挨拶

13 アジアまちかどライブラリー

～支援地の生活や文化を紹介～

14 コーヒーブレーク

事務局からのお知らせと耳より情報

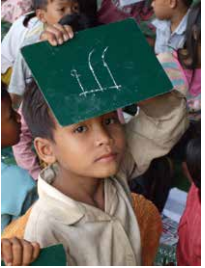
クラウドファンディングを実施しています

「生きる力向上プロジェクト！カンボジア障害児とお母さんに教育を」

期間：2022年3月1日 11:00～30日 23:00

今号の表紙

2007年にカンボジアの首都プノンペン周辺のスラムで撮影。
エファが運営するスラム内寺子屋教室で勉強する男の子。



カンボジアの障害児教育の現状と課題



理由で辞めざるを得なくなっています。エファが行なったヒアリング調査では、健常児と同じ小学校に通う障害児は、クラスの中が混んでいて移動が難しかったり、自分の存在が恥ずかしい、先生に質問する勇気がないなどの思いを抱えていることが分かりました。これらは、カンボジアの障害児が基礎的な読み書きや社会生活上の必要な知識、言い換えると、将来安定した収入を得て、生き抜いていくためのスキルを学ぶ場所と機会が非常に少なく、環境が整っていないことを表しています。

(出典：2019年カンボジア国勢調査)



障害を抱える子どもたちが抱える問題

カンボジア・ドントン郡に暮らす、障害を抱える30人の子どもたちにエファが行ったヒアリングでは「授業についていけなくて悲しい」「教科書だけでは、勉強を理解することが難しい」「クラスメイトから差別されていてつらい」と寂しそうに語る子どもが多かった一方で、先生が教えてくれたことが理解できたとき、クラスメイトに「お前もできるじゃん」と言われたときは本当に嬉しかったと話してくれる子どももいました。



障害児教育制度整備の遅れ

カンボジアは過去30年にも及び内戦と混乱の間に、学校、図書館などの公共施設、寺院のほとんどが閉鎖され、家畜小屋や刑務所、処刑場として使われました。学校の先生は人々に余計な知識を与える敵として捕らえられ、8割以上が命を落としました。内戦終結後1993年以降は、教育のゼロからの復旧・復興が行われ、現在では90%以上の子どもが小学校に入学できるようにはなったものの、未だに就学できなかったり、続けられなかったりする子どもも多く、教育の格差が存在しています。特に障害がある子どもへの教育は、大きく遅れています。

- 1993年「カンボジア王国」成立発足
- 1995年「5教育セクター投資枠組み(1995-2000)」
- 1997年「障害活動評議会(DAC)」発足
- 2001年「チャイルドフレンドリースクール・プログラム」開始、「教育戦略プラン(2001-2005)」
- 2002年「社会福祉・労働・職業訓練・青少年リハビリテーション省」設置、「障害者権利法案」成案化
- 2003年「Education for All 国家プラン(2003-2015)」
- 2009年「障害児教育に関する政策マスタープラン」策定

低い障害児教育水準

カンボジア全土の小学校の修了率は約82%ですが、障害児に関しては約23%と非常に低く、小学校に入学しても様々な

障害児(7歳以上)の小学校卒業率は、22.9%と非常に低い。小学校に入学できても途中でやめざるをえなくなっている。

農村部障害児の小学校卒業率は、22.1%と都市部22.4%よりも更に低い。

カンボジアの障害者の就業率は52.9%。また安定的な収入を得られる仕事に就くことも難しい。



1 施設・環境の問題

自分のペースで勉強できる場所がない

カンボジアでも盲学校、聾学校の設置を進める動きはありますが、農村部ではいまだにそれらの受け皿がなく、障害児が自分のペースで勉強できる場所がありません。

2 教材の問題

教材や本が手に入らない・買うことができない

内戦で殆どの書物が焼かれたカンボジアでは、子どもたちが読む本もゼロから作り直さなければいけません。現在でも障害がある子どもたちが学び、楽しめる教材は、皆無に等しい状態です。

3 情報の問題

外部からの情報がない・情報が届かない

障害児と母親、家族も含め、障害児(者)の権利や保障制度について知らないことが、事前調査を通じて分かっています。

4 先生の問題

障害者教育の専門知識がある先生・専門家がない

障害を抱える子どもへの接し方、教え方の専門知識と経験をもつ先生がほとんどいません。先生や周りの大人の障害児とその母親、家族に向ける態度が、他の子どもたちの偏見や差別を生み、助長する原因にもなっています。

5 家庭の貧困の問題

貧困状態の家庭が多い

農村部の障害を抱える子どもたちの家族の多くは、経済的な課題を抱えています。カンボット州ドントン郡では、民間のマイクロファイナンス(開発途上国における貧困層に対して小口の融資)業者が、障害者のいる家族には、ローンを組ませないというケースが散見されています。

6 障害児と母親・家族への地域コミュニティでの偏見と差別

地域やコミュニティ内での、障害児とその家族に対する差別や偏見から、母親や家族が障害児がいることを隠したり、学校に通わせることを嫌うケースも見られます。また障害児が生まれたことを家族から非難されたり、引け目を感じて、家族の中で孤立してしまう母親もいます。

7 相談相手がない、社会保障がない

障害児のお母さんは自分の子どもを今後も自分がどうやって支えていくのか、自分なきあとも子どもがどうやって生きていくのか、大きな不安を抱えています。そして、公的機関を含め、誰にも相談できず、悩みを打ち明ける相手もないという状況に置かれています。

障害が

あるからこそ

学びたい

話手

プロム・サム・オーウン

Cambodian Agency Development of Disability and the Poor (CADDP) 事務局長

生まれたときから内戦状態にあり、タイに逃れ難民キャンプで10年ほど過ごす。自らが障害者であり、偏見や差別を乗り越えてきた貴重な体験を基に、CADDPを立ち上げ、障害者の自立・生活向上に向けた種々の活動を学校や地域社会、現地行政の理解、協力を得ながら実施している。

聞き手

鎌倉 幸子

認定NPO法人エファジャパン海外事業担当

鎌倉 エファジャパン（以下、エファ）と2021年9月からスタートした事業「カンボジア農村部の障害児のライフスキル向上プロジェクト」を協働で実施しているCADDPの代表を務めるプロム・サム・オーウン（以下、サム・オーウン）さんにお話をうかがいます。

サム 日本の皆さん、初めまして。プロム・サム・オーウンと申します。私はカンボジアのプーサット州で生まれました。生まれつき両手に障害があります。小さいころに内戦が始まりました。命からがら祖国から逃れ、隣国のタイに逃げました。サイト2という難民キャンプで難民として約10年間過ごしました。その後は難

チルドレン・スタディ・クラブで子どもたちへクメール語を教える



ています。一人ひとりが己を知り、自分の未来までの地図を描き、それに向かつて力強く進んでもらいたいと願っています。サム・オーウンさんはその実現のために心がけていることはありますか。

が、その機能を最大に活かせるように努力をしました。いまではPCも使えるし、スマートフォンでメールをすることもできるので、エファとオンラインで会議もできていますからね。

鎌倉 なるほど。まずは自分がロールモデルとなることで、周りの認識が変わっていくということですね。

サム そうです。もちろんコミュニティに障害者に対することを伝えていくことは大切です。ただ、障害者について理解を示したとしてもどうしても「かわいそうな人だから助けねば」という考えから抜け出せない人もいます。ここで大切なのが「障害者ってすごいじゃないか」と思ってもらうこと。そのためにロールモデルが現れて欲しい。チルドレン・スタディ・クラブには、将来の夢は「スーパースター」という子どもがいます。私は、すべての子どもたちが、どんな分野でも「スーパースター」になれると思います。

鎌倉 一人ひとりの子どもが「スーパースター」になる事業を協働でできることは大変光栄です。最後に日本

のみなさんにメッセージなどありますか。

サム チルドレン・スタディ・クラブはまだ立ち上がったばかりです。カンボジアでは障害がある子どもたちの教材がないなどの課題があります。また今後、障害があっても収入をえるための野菜作り、養鶏などを伝えていく予定です。新型コロナウイルス感染症の影響で渡航がなかなか叶わないと思いますが、ぜひカンボット州に来て活動を見ていただきたいです。そして障害児の教育、教材開発、農業・酪農などのアドバイスをしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

鎌倉 サム・オーウンさん、本日はありがとうございます。



お孫さんと一緒にCADDPオフィスの前にて

僕はなかなか物が覚えられなくて、学校に通っても授業についていくのも大変です。でも繰り返し、繰り返し、話を聞けばわかるようになります。そしてわかったとき、すごく幸せな気持ちになります。そんな繰り返し勉強できるチルドレン・スタディ・クラブに通えて、わかるまで勉強することができてうれしいです。将来は、エンジニアになりたいです。カンボジアの発展のために力になれる仕事に就きたいです。



リット・ナルン(11歳)(左)

私は小さいときにポリオにかかり、それからは、誰かに体を支えてもらわなければ歩くこともできません。クラスメイトにもからかわれ悔しい思いをすることもあります。悲しいですが、自分のことをきちんとできるようにすれば、周りも応援してくれると思います。私の夢は先生になることです。先生になって同じような思いをしている障害がある子どもがいたら支えたいです。



サトスレイ・トー(10歳)

子どもたちへのインタビュー

鎌倉 自身は未来を切り開く力や可能性があるのに、その力を発揮できないのは周りの環境による影響が大きいですね。エファジャパンは「すべての子どもたちが可能性と創造性を発揮し、自分ものがたりを描ける社会に。」をビジョンとして事業を行っ

た。に、CADDPは2007年に立ち上げました。私は、小さいころから、偏見や差別を受けてきました。一番つらかったのは周りから「障害者は何もできない人」と決めつけられることです。そう周りに決めつけられた環境に身をおくと、とて自分は何もできない人だ」と、障害者自身がそう自己評価をし始めるのです。たとえ可能性があっても、その可能性を自ら閉ざしてしまうのがとてもつらい、悔しいです。そのような思いがあり、CADDPの設立に至りました。

鎌倉 難民キャンプでの生活も経験され、その後移り住んだカンボット州でCADDPを設立されたのですね。

サム はい、CADDPは2007

カンボジア農村部カンポット州ドントン郡の 障害児ライフスキル向上プロジェクト

実施の背景

カンボジア障害児教育の課題や現状（P3）を踏まえ、エファでは、インクルーシブ教育を通じて読み書きなどの基本的な教育を受けること、ライフスキル[※]を身につけること、そして社会で尊厳ある生活を送り、経済的な自立を図っていくことが、障害児にとって重要だとの思いから、カンボジア農村部ドントン郡で障害児ライフスキル向上のためのプロジェクトに新たに取り組むことといたしました。

ケング・カカダーくんは（左上写真）

「手に障害があるけれど、他の使える体の部分を使って、自分で未来を拓いていきたい」と語ってくれました。

※ライフスキルとは
日常生活のさまざまな問題や要求に対して、建設的に対処できる能力。また安定的な収入を確保し、生活するための知識や経験。

アクセスの悪い地域の子どもを取り残さない

首都のプノンペンから150キロ以上離れた農村部カンポット州ドントン郡は、カンボジア内戦時代には特に激しい戦闘がおこなわれた地域です。郡内の学校は、いくつかの村が集まった「集合村」単位にしかなく、遠くて通学が難しかったり、家計を支えるため、農作業や兄妹の世話をするため、就学を諦めている子ども特に女の子が多い地域です。



※チルドレン・スタディ・クラブができたら通う予定の子どもの自宅です。農業だけでは生活が成り立たないのでお父さんは工事現場でも働いています。

プロジェクトの対象になる子どもたち

ドントン郡にある「ラアング」「トゥール・トング」「ダムナックソックラム」の3つの集合村で生活する、30人（男児20人、女児10人）の障害を抱える（主に8〜12歳の）子どもたちです。様々な種類や程度の障害を持っています。またこの30人の保護者は全員農業に従事していますが、いずれも経済的に非常に困難な状況におかれています。



プロジェクトで取り組む7つの活動

① チルドレン・スタディ・クラブを3か所設置します

障害がある子どもたちに「小さな成功体験を積める場を

障害を抱える子どもたちが安心して集まり、学習速度の遅い友だちをサポートしたり、数学や理科、クメール語など得意な子どもが先生役を務めるなど、お互いを支え合う環境を作ります。週に3日程度の開館（学校放課後）を予定しています。学校や地域の中に設置することで、子ども同士、親同士の交流が生まれ

たり、地域の長の理解が促進される可能性が高いと考えています。30人の子どもたちを、自宅からの通いやすさの観点で3つのグループに分け、各グループには指導リーダーを配置。運営と活動に当たっては、目標、目的、活動内容、運営ガイドライン、指導要領、障害児教育方針などの資料を作成し、それらガイドラインと指導計画に基づき、指導者及び運営スタッフのトレーニングと意識共有を図りながら、チルドレン・スタディ・クラブを機能させていきます。

② 子どもの権利条約についてのトレーニングを実施します

障害児が日々自信をもって生きるための情報を

カンボジアの子どもたちは、自分自身が「権利」を持っていることを認識していません。そのため「障害があっても権利を有していること」を伝えるトレーニングを開催します。トレーニングは、指導スタッフとカウンターパートである州・郡教育局、州・郡福祉・労働・職業訓練・青少年リハビリテーション局と協働で行います。内容は、子どもの権利条約にある「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を伝えるとともに、チルドレン・スタディ・クラブへの期待や活動内容など参加する子どもたちから意見をもらう場を設けます。

③ 公衆衛生に関するトレーニングを実施します

障害児が健康に安全に生きるための情報を

障害児に限らずカンボジアの子どもたちは、手洗いなどの習慣がなく、不衛生な環境が原因となる病気になるケースも多くあります。チルドレン・スタディ・クラブでは、公衆衛生に関するトレーニングを実施し、子どもの健康問題とそれを予防するための基本的な衛生・消毒法、感染症や予防法、障害児公衆衛生教育に関する政策などの情報提供や説明も行います。

④ ライフスキルトレーニングを実施します

障害児とお母さんが安定した収入を得るための職業訓練を

障害児と母親に有機肥料を使った安全な野菜を育てる方法や、近代農法のための土作り、水の管理、そして家庭菜園の有効性や重要性を伝えます。また学習後の実践に際しては、野菜の種を渡した後、指導スタッフが子どもたちの家を訪問、サポートや家庭菜園の様子をモニタリングします。



新役員のご紹介



理事長
伊藤 道雄

認定NPO法人アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21) 代表理事

子どもたちが夢に向かって歩める社会づくり

NGOの世界で40年間、アジアのNGO400団体以上を訪問しました。現在は、ACC21の代表理事として公益信託ACT、フィリピンのストリートチルドレン“ゼロ”キャンペーン、「日韓みらい若者支援事業」の推進に取り組んでいます。エファジャパンとは、イーデス・ハンソンさんの後を受けて2014年に理事長に。エファの活動を通して、子どもたちが自分の夢を実現できる社会をつくります。



理事
学頭 貴子

株式会社日本経済新聞社 編集 金融・市場ユニット 記者

地球上の誰もが生きやすい社会に

日本経済新聞で政治・経済を主に担当してきました。取材をきっかけに外国人との共生社会の実現をめざす活動に加わり、在日外国人労働者や留学生の支援をする中でエファとのご縁をいただきました。地球上の誰もが生活に不安なく、権利を制限されず、夢や目標に向かって歩んでいける社会のために微力ながら尽力いたします。

新役員のご紹介



副理事長
川本 淳

全日本自治団体労働組合(自治労) 中央執行委員長

子どもたち一人ひとりの未来のために

エファジャパンとの直接的な関わりは15年以上も前、ラオス・ヴィエンチャン都立図書館・多目的ホールの建設支援からです。どこの国に生まれても子どもたち一人ひとりが、学ぶ機会を得て、搾取されることなく健やかに暮らし成長していくことができる世界になるように。自治労は、幅広い層と職域からの参加が確保されるような国際貢献活動をしてまいります。

⑤ 専門的知見による障害児小規模図書室を整備します

障害の種類や程度に関わらず、いつからでも学べる環境を。

現地パートナー団体施設の一室(8×7メートル)を図書室として整備します。整備、その後の運営あたっては、カンボジアの障害者専門病院であるタクマオ病院の指導を得て行います。同時に、日本の専門家や専門施設の知見も得ながら障害児小規模図書室の整備、運用を行います。

⑥ 障害児の図書室利用についてのトレーニングを行います

図書室の利用促進と有効活用のための専門知識を。

州教育局と協力し障害児の図書室利用についてのトレーニングを日本の専門家のアドバイザーも取り入れ開催します。現状二丁の高いトピックは、図書館の利用方法、読書の重要性、一般的な知識やその他の人生のスキルを得るために役立つ本の読み方、障害児の資料の使い方、保護者の学習サポート方法などです。

⑦ 障害児の学習用教材とデジタルデバイスの整備と活用を進めます

障害児教育の専門教材とデジタルリテラシーの向上を。

カンボジアでは、障害児向け教材が皆無に等しい状態です。実施場所のドントンは、インターネット環境も悪く、また障害児の保護者は経済的に困難な状況にあるためデジタルデバイスを購入することも難しく、障害児が外部の情報と接する機会もほとんどない状況です。ユニネスコのデジタルリテラシーガイドラインは、今後世の中を生きる全ての人に必要になるとされています。教材に関しては、カンボジアの障害児教育の知見のある病院やNGO、また日本の専門家の協力を得ながら、既に活用されている教



材の購入と活用、そして新しい教材の開発を行います。同時に、インターネット環境やPC、タブレットの整備も進め、ウェブサイトを閲覧したり、カンボジア教育省の動画教材を活用することで、情報収集スキルやデジタルリテラシーを育成していきます。

※カンボジア州タクマオにあるタクマオ病院と病院内に設けられた「Center for Child and adolescent mental health (CCAMH)」を訪問。障害を抱える子どもたちの図書室運営や教材作りを学ぶ予定です。

協働する現地パートナー

今回のプロジェクトの現地パートナー団体CADDP代表のフロム・サム・オーウンさん写真中央も、両手に障害を抱えています。これまで自分が受

このプロジェクトを通じて実現すること

カンボジア農村部ドントンの30人の障害児一人ひとりが、経済的に自立し、自分らしく、心豊かに生きていること。また家族、地域、行政が連携、共に生き合う地域になっていること。これらを実現するため、エファは、障害児とそのお母さんの生きる力を向上させるライフスキル教育の機会と場所を届けてまいります。



けてきた偏見や差別などの経験から、元の障害児を支援する団体を立ち上げました。子どもたちには、誰にでも可能性の芽があることを、まずは知ってもらいたいと話してくれました。

※フロムさんの経歴などについてはP5-6をご覧ください。

新役員のご紹介



理事
渡戸 一郎
明星大学 名誉教授

公正で開かれた社会をつくる

社会学の視点から、グローバル化する社会における市民活動や自治体政策づくりに関わってきました。とくに移民・難民支援活動との関わりは30年以上になり、その過程で国際協力NGOとの接点もありました。現在は、自治体の多文化共生推進会議の座長のほか、東京ボランティア・市民活動センター運営委員長、日野市社会福祉協議会理事、多文化共生教育ネットワーク東京（TEAM-Net）共同代表を務めています。



監事
宮原 朝香
認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 事務局長

地に足を着けた発展を

2006年から約10年間エファジャパンで広報担当として仕事をしました。その後新しい経験を求め団体を離れ、現在は小児がんのお子さんやその家族を支援する団体の事務局長をしています。エファジャパンの団体としての歴史の前半を経験した者として、過去を踏まえつつ未来に向かうエファジャパンの躍進に役立てればと、私には重責ではありますが事業担当監事をお引き受けしました。支援者のみなさまも転換期を迎えているエファジャパンのこれからにご注目ください。



理事
玉井 一匡
玉井一匡建築研究所 代表

子どもたちによりよい世界を残してやりたい

ラオスやカンボジアの、困難な環境にありながら生き生きとした子どもたちを見ると、子どもというものは 日ごとに記憶がリセットされていて、困難な状況にあっても希望を持って生きられるようにできているのかもしれないと感じます。おとなは、あの子たちのくれた励ましを手に、歴史を踏まえ 未来を見すえて 彼ら彼女たちが存分に生きて行けるような未来を手渡してやりたいと思います。

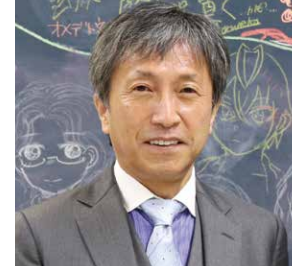


監事
榎本 朋子
全日本自治団体労働組合（自治労）総合企画総務局長

未来を担っていく子どもたちに夢を

自治労新潟県本部出身で、タトゥーン村の図書館を支援しています。エファとの関りは、自治労がアジア子どもの家事業を行っていた時代に遡ります。「まんが」を得意とする自治労の仲間たちが、ベトナムの子どもの家の壁一面に絵を描きました。その壁の絵を見た時の子どもと仲間の笑顔が忘れられません。自治労の活動を通じて、子どもたちが笑顔で、人格を持った一人の人間として大切にされる環境を作っていきたいです。

新役員のご紹介



理事
栗本 正則
NPO法人FAIR ROAD 副理事長

どこで生まれ育ってもチャレンジできる社会

以前所属していた「大阪マイペンライ（アジア保育教育交流推進実行委員会）」で絵本プロジェクトやスタディツアーを通じて、タイ・バンコクのスラムやタイ北西部の難民キャンプ、移民学校などで子どもたちと交流をしてきました。2012年にNPO法人FAIR ROAD 立ち上げ後は法人として毎年現地を訪問しています。国内においては地域居場所や中学校内居場所、高校内居場所カフェを運営しています。そんな経験がエファジャパンでお役に立てれば幸いです。



理事
高橋 篤
こくみん共済coop（全労災）自治労共済本部 副本部長

みんなが幸せな社会を

1988年に大阪府大阪狭山市役所に入職、その後、組合役員を経て、2006年から自治労大阪府本部で専従、その後2017年から自治労本部で組織担当役員をしてまいりました。この間、エファの皆さんには、府本部におけるタイ・カンボジア支援の取り組みやアジア子供の家事業に関連した絵本の翻訳寄贈をはじめ、様々なところでお世話になりました。これからは皆さんと一緒に取り組みを推進する立場で努力してまいりますので、よろしくお願いします。



理事
木下 究
公益社団法人 東京自治研究センター 研究員

アジアと共生する地域社会をめざして

1978年、司書として立川市図書館に勤務。職員体制の改善、公務災害認定闘争などを通じて自治労運動に積極的に関わるようになりました。1998年、立川市の移動図書館車がラオス国立図書館に寄贈されたのをきっかけに、職員有志で結成された「立川とラオスを絵本で結ぶ会」に参加。ラオスの図書館活動、読書推進活動の支援に携わった縁で、2012年、エファジャパンの理事となり、現在に至ります。



理事
関 尚士
認定NPO法人エファジャパン 事務局長

教育で明日を生きる力を

私が国際協力の世界に飛び込んだのは1989年、学生時代にお世話になっていた方との縁が始まりでした。途上国の現場で共にした人々、被災地で出会った子どもたちから、どこで生まれても、どのような環境で育っていても、子ども一人ひとりには自分の人生を切り拓いていく力が備わっているという確信を与えられました。誰ひとり取り残すことなく、「明日を生きる力」を身につけられる社会をともに創っていきましょう。

COFFEE BREAK



事務局からのお知らせと耳より情報

キャンペーンのご案内

エファジャパンリサイクル募金

捨てずに **ぐるりと。**

**すっきり
新生活キャンペーン**
(3月16日～5月15日)



大切なもの
だから
役立てたい

「使わなくなったもの」
「要らなくなったもの」が
アジアの子どもの「教育」
の支えになります！

入園・入学・入社・引越・模様替えなどのシーンで

「使わなくなった本や・DVD・CD・ゲーム」
「アクセサリやブランド品」
「楽器・カメラ・模型・フィギュア」など



エファジャパンリサイクル募金
「ぐるりと。」を是非ご活用ください。

アジアの山岳部や農村部の
子どもたちの支えになります



【詳細はエファジャパンHPへ】

無料オンラインイベントのご案内

春休み【中学生・高校生のための】
MANABI-BA

ユースによるユースが主役の学び合いの場

ゼロから知る身近なジェンダー
【学校生活編】

2022年 3月30日 (水)
5:00-6:00PM ZOOM開催

(企画運営) ユースチーム (高校生)
(主催) 認定NPO法人エファジャパン

【申し込み】
※Googleフォームまたは Peatixから。
※定員になり次第締切

気軽にご参加ください



Google フォーム



Peatix

【当日の主な内容】

- (1)アイスブレイク
- (2)レクチャー
- (3)ゲーム
- (4)ワークショップ
- (5)ディスカッション
- (6)意見共有

エファジャパンは全国で市民サービスに関わる
人たちが応援する国際協力NGOです

EFA JAPAN

検索

春休みに一緒に学ぼう！

エファユースチーム(高校生)
が企画・運営する、中学生・
高校生のためのオンライン
勉強会です。

気軽に
ご参加
ください。



アジア

悲
ち
か
ど

ライブ러리

お米でつくったお菓子
「カオラム」をご紹介します



ラオスの人々はお飯(特にもち米)が大好き。毎年11月、涼しい季節が始まると、カオラム(Khao Lam)が地元市場やお祭りに登場します。身近なところで手に入る竹を器に、もち米とココナツミルク、豆などを入れ、火にかけて炊き上げます。蓋には、ココナツの殻やバナナの葉が使われます。食べる際には、竹を縦半分に割り、中身を取り出します。「カオラム」はラオスの人々の大好きなお菓子のひとつです。竹やココナツの香り、ほんのりの甘さがラ



オスの人々のお気に入りです。日本は近年アウトドアブーム、竹筒でご飯を炊いてみたいという人も増えているとか。是非、ラオスのお菓子「カオラム」づくりに挑戦してみたいいかがでしょうか？



写真は、ビエンチャン事務所の
ソンバンさんが撮影(左)

実施中のクラウドファンディングのご案内

終了間近! 3月30日まで。



生 障 カ
き 害 ボ
る 児 ジ
た と ア
め お 農
の 母 村
教 さん 部
育 を に の

心を支え
未来を育む

期
間

2022年 3月1日 11:00 ~ 30日 23:00

生きるちから向上プロジェクト! カンボジア障害児とお母さんに教育を

達成に向けて
お力添えを
お願いします。



<https://readyfor.jp/projects/efa-lifeskill-cambodia>

カンボジアでは今も、障害を抱える子どもの約 8 割が、小学校教育を受けられない状況にあります。障害がある人たちのための福祉や教育の法整備が遅れ、公的支援もなく、地域社会の偏見や差別の中でその日を暮らしていかなければなりません。読み書きもできず、自立する術を持たずに成長していかざるを得ない子どもたち。そしてそれに不安を抱えながらもどうすることもできないお母さんたちが大勢います。

エファジャパンでは、カンボジアの農村部、ドントン郡で、障害児とお母さんたちが、尊厳ある生活を送り、また

経済的な自立を実現していくためのプロジェクトに取り組むため、クラウドファンディングに挑戦中です。「生きるための教育」、「安心な居場所」づくりを通じ、家族、地域、行政とともに、新たな社会を構築していくプロジェクトです。詳細は、公開中の専用サイト(上 QR コード)でご確認ください。ご協力、ご支援をお願いします。

- エファジャパンHPのNEWS一覧の概当ページでも、詳細・支援方法が確認いただけます。 <https://www.efa-japan.org/post-15777/>
- Google等で検索する場合
「Readyfor」→Readyforページ内で「エファジャパン」

発行人に関する記載

えんばわ 通巻64号(2022・3・春)
2022年3月1日発行

発行人: 伊藤道雄

編集人: 増村康亮

編集協力: (株)MAG MAG

発行所: 特定非営利活動法人エファジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階

TEL: 03-3263-0337 FAX: 03-3263-0338 Email: info@efa-japan.org

<https://www.efa-japan.org/>

※エファジャパンは、全国の地方公共サービスに携わる人たちが応援する、国際協力NGOです。アジアの子どもたちへの教育文化支援・福祉支援を行っています。

※認定NPO法人であるエファジャパンへのご寄付は、税制優遇の対象です。